

消防士長 藤江友紀

『言葉に寄り添う』

「 Please send an ambulance right away. My husband said stomach hurt and collapsed・・・」

これは実際にあった119番通報ですが、この時は、突然の英語に驚いてしまい、思うように言葉が出ませんでした。

私達、指令課員は何の事前情報もなく、通報者の声だけで、対応しなければなりません。私達の慣れない対応が外国の方に無用な不安を与えてはいないでしょうか。

翻訳機器が整備されるのをただ待つのではなく、私は、国際交流の場に出向くなどして外国語に触れる機会を増やしました。全ての会話は分かりませんが、外国語との距離感は近づいています。

外国人観光客の増加は著しく、全国的な指令課の対策としては三者同時通訳による多言語対応が進んでいます。しかし、いくらハード面が整備されても、それを扱う人間が外国語に疎遠であっては意味がありません。

そこで指令課では、英語で簡単な応対が出来るように、単語の聞き取りや正しい発音のトレーニング、また、想定される言語に聞き慣れる訓練にも取り組んでいます。

助けを求める人は外国人であっても、同じように手を差し伸べる。言葉が違っただけでその方の不安を取り除けないようでは真の消防人とは言えないのではないでしょうか。

顔は見えなくても、手に触れる事はできなくても、「言葉」から人の温かさが伝わるように。そして、それが安心に変わるように。私は、言葉に寄り添う消防人を目指します。

Don't worry. I understand your mind と発表した。